

就学の難しさ

○障害のある子どもの進学先は？

障害のある子どもは、小学校に進学するときに、小学校の通常学級に進学するか、小学校の特別学級に進学するか、特別支援学校に進学するかという選択がある。子どもの保護者は、地元の小学校に通わせて勉強や集団生活についていけるか、特別支援学校に通わせてその子のペースに合った教育をさせるかなど、たくさん迷いながら就学先を決定する。

○就学先決定について

障害のある子どもの教育は、その障害の状況等に応じて、可能性を最大限に発揮させ、将来の自立や社会参加のために必要な力を培うという視点に立って、一人一人の教育的ニーズに応じた指導を行うことが必要である。本人と保護者の意見を可能な限り尊重し、教育的ニーズと必要な支援について合意形成を行うことを原則として、障害の状態や必要となる支援の内容、教育学等の専門的見地といった総合的な観点を踏まえて、最終的に市町村教育委員会が就学先を決定する。

○どのような問題があるのか

保護者が子どもを幼稚園から仲の良いお友達がいる地元の小学校に通わせたいと思い、希望を出したとしても、小学校側が障害のある子どもに対する教育的支援や環境が不十分であるという理由で就学を断るといった事例がある。本人や保護者の意思を最大限に尊重するとなっているにも関わらず、本人や保護者の希望する学校に通えないという人はたくさんいるということが現状である。

○どのような改善が必要であるか

早い時期からの適切な相談体制整備が重要である。適切な就学指導につなげるためには就学だけではなく、個別の教育支援計画を策定するなどにより、その子にとってどのような支援が必要かを長いスパンで考える相談体制の整備が必要である。また、学校側は子ども一人一人の教育的ニーズに応じた支援ができるように、インクルーシブ教育システムを構築することも必要である。

〔参考文献〕

文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/shugaku/detail/1422234.htm